要　旨

氏　　名　張　笑秋

題　　目　1980 年代以降の上海におけるスナップ写真の研究

要　　旨

スナップ写真は写真表現の分野一つとして、都市の発展と密接な関係があり、都市が近代化する過程の中で様々な瞬間を表現してきた。都市の写真は都市が近代化する過程における変革を記録して解釈するだけでなく、都市の新しい文化にも影響を与えるなど、写真は都市と対話する相互作用の関係も持っていた。そのため、上海の都市スナップ写真を分析及び考察することは、上海の街の変化を研究することが繋がると考えている。

写真家たちがスナップ写真という手法を取り入れたのは、個人の視点で捉えることができる「都市の表情」の写真の可能性や芸術性を模索することであった。本研究では上海のスナップ写真をどのように読み解くのか、スナップ写真の意味することは何なのか、上海の都市のスナップ写真の変遷はどうあったのかを解明するために上海の都市スナップ写真を中心に論ずる。上海は中国写真が最も早く伝来した都市であり、上海のスナップ写真も社会と共に変化してきた。写真の理念や技術の進歩が、スナップ写真家を輩出したことから、中国で最先端で多様であった都市景観、都市の人々の様子などのスナップ写真を取り上げる。開放後 1980 年代から 2010 年までを 10 年ごとに三期に分け、各時期の代表的な写真家 3 人に焦点をあて、彼らに直接会って取材した。その理由は、スナップ写真としての証人は撮影者自身であると考えたからである。写真家たちの作品を理解する上で、彼らの生涯、創作経験、個性などの背景を取材から明らかにし、スナップ写真の表現方法、人間の意識、心の葛藤、社会の認識、自由などを表現したことを論ずる。

本研究は、第一章で、スナップ写真の概念や発展を述べ、第二章では、改革開放後をほぼ 10 年ごとに第一期、第二期、第三期に区切り、各時期ごとの写真家の仕事と、作品がどのように展開されたのかを論じる。また、それらを総括する形で、1980 年代以降の上海スナップ写真に対する研究者の見解を述べる。第三章では、研究者の作品《Time After Time-平静の市場》と《上海郊外》シリーズについて、研究者自身の視点を論じる。

本研究を通して、写真家たちは都市に対して独自の認識を持ち、創作の際に、それぞれの探索や発見をしていることに気づいた。1980 年代、中国の人々の思想の解放に伴い、第一期の上海におけるスナップ写真は、かつての演出写真の方法を疑い、それに反抗し、スナップ写真によって写真の真実と自由を求めた。第一期のスナップ写真は、テーマや表現方法などが変化する時期であり、これらにより、人々は上海の時空を超えた記憶の映像を現在でも見ることができる。

上海の 1990 年代は、社会発展と文化意識の転換により、グローバル化が進み、混沌としていた。都市の住民はみな大きなストレスを抱えていた。これらは国の発展の中で避けられない状態であった。第二期の上海のスナップ写真は、第一期の新しい理念を受け継ぎ、展開し、表現方法はさらに豊かでかつ複雑になった。第二期は上海の写真が急速に発展した時期で、視覚的な表現スタイルとして芸術性が重んじられた時代でもあった。個人（写真家）の目覚めはスナップ写真が近代性を獲得した重要な要因であり、撮る側と見る側の両方が、写真という装置を理解し始めた時期であった。

第三期では、様々な写真家が上海の都市スナップ写真に新たな力を注いだ。情報のグローバル化に伴い、写真による考え方や写真本体の言語の多様化は明らかになっていった。彼らは創作過程で自分を探し、自分に合った芸術言語を探求していった。21 世紀になり、写真家は自身の情熱でスナップ写真の可能性を探り続け、写真の主体性、社会的責任、批判精神などを検討した。

改革開放からの 40 年間、自由化した中国はかつてない芸術の発展環境を生み出している。そうした環境で写真をキーワードとして、表現技術、社会的機能、芸術表現と観念の伝達の時期に、多くの写真家が出現し、彼らはグローバルな芸術家として探索を始めた。こうした結果、現在中国の写真家は世界の写真史に欠かせない存在となっている。これら写真家は上海或いは中国写真界の一部であるが、現代の写真表現の重要な荷い手である。彼らが健在の今、直接創作についての証言を得ることができた。無論、写真の解釈は鑑賞者の自由であるが、写真家の証言は作品理解に資することができればと考える。近い将来、本研究が今後の上海写真、ひいては中国写真の研究者や写真作家たちに影響を与えると信じている。